

# 他空港の P I 実施事例について

---

2021年10月18日

中部国際空港将来構想推進調整会議検討部会

事例 1 福岡空港（滑走路増設）

事例 2 那覇空港（滑走路増設）

事例 3 北九州空港（滑走路延長）

事例 4 成田国際空港（滑走路増設、延長）

※いずれの事例もホームページ掲載情報をもとに作成

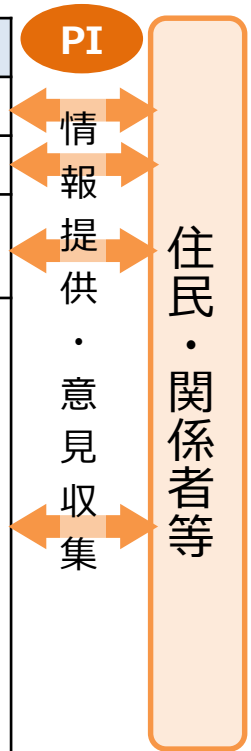
# 事例 1 : 福岡空港 (滑走路増設) ①

## ■総合的な調査の実施 (2003~2008年度)

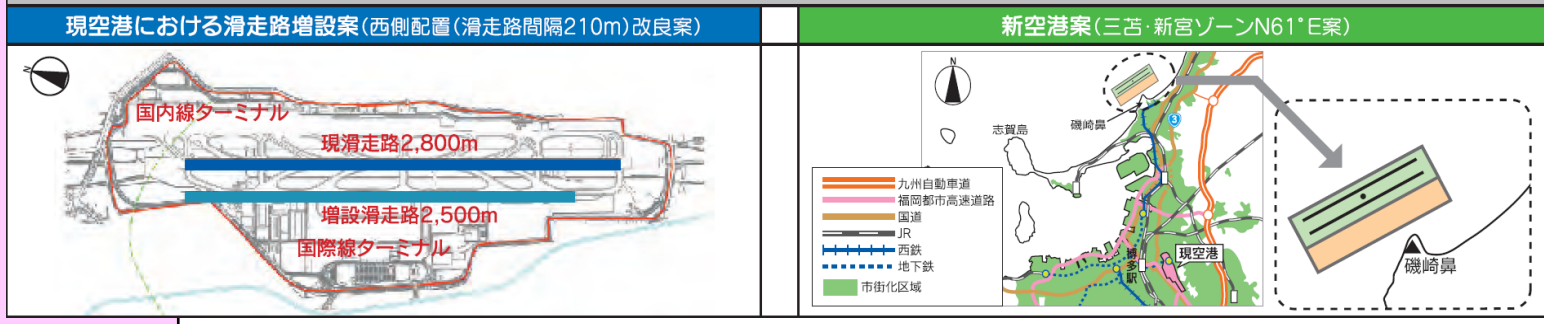
- ✓ 2002年12月の交通政策審議会航空分科会の答申において、福岡空港の需給が将来的に逼迫する等の事態が予想されるとして、抜本的な空港能力向上方策等について、幅広い合意形成を図りつつ、総合的な調査を進める必要があると示された。
- ✓ これを受け、国と地域 (九州地方整備局、大阪航空局、福岡県、福岡市) において、2003年7月に「福岡空港調査連絡調整会議」を設置し、滑走路増設、新空港を含めて、総合的な調査を実施。
- ✓ 調査を進めるにあたっては、検討を4つの段階に分け、各段階でP Iを実施。  
その結果等を踏まえ、現空港における滑走路増設案により、構想・施設計画段階の検討に移行した。

### <総合的な調査：福岡空港調査連絡調整会議> ※期間中に本体会議12回、幹事会7回開催

段階	検討内容
ステップ1	福岡空港の現状と課題、空港能力の見極め
ステップ2	地域の将来像と福岡空港の役割、将来の航空需要の予測
ステップ3	将来需要への対応方策※、将来対応方策の評価の視点 ※ 近隣空港との連携、現空港の滑走路増設 (3案)、新空港 (2案) を提示
ステップ4	将来対応方策の比較評価※、方向性 (案) ※ 現空港の滑走路増設、新空港を各1案に絞り込み比較評価



将来対応方策案



**現空港における滑走路増設案** により、構想・施設計画段階へ移行

# 事例 1 : 福岡空港 (滑走路増設) ②

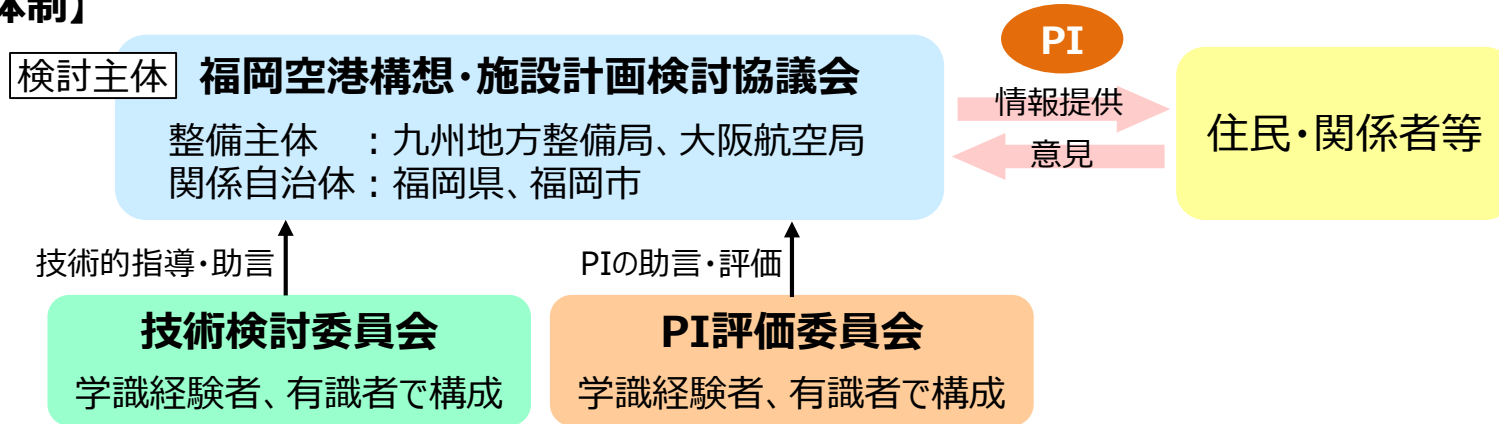
＜総合的調査における P I の実施内容＞ ※ P I 有識者委員会の助言、評価を得て実施

		ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4
周知広報	開始時期	2005.6.24～	2006.6.27～	2007.9.10～	2008.9.20～
	新聞広告	6回/5紙	5回/5紙	3回/3紙	2回/2紙
	雑誌広告	-	2回/2誌	-	-
	ラジオ広告	78回/3局	40回/2局	127回/2局	79回/2局
	ラジオ放送	-	8回/1局	行政番組1回、その他1回	行政番組:1回
	テレビ広告	-	-	54回/3局	67回/3局
	テレビ放送	-	行政番組:42回/2局	行政番組:42回/2局 その他:2回/2局	行政番組:42回/2局 その他:4回/4局
	チラシ	65,000部	60,000部	90,000部	100,000部
	ポスター	1,100部	1,100部	1,100部	1,100部
	行政広報誌	福岡県、福岡市	福岡県、福岡市	福岡県、福岡市、地整	福岡県、福岡市
	その他	調整会議ニュースレター	国際交流機関広報誌	国際交流機関広報誌	交流機関広報誌
	ホームページ	2005.6.24～	2006.6.27～	2007.9.10～	2008.9.20～
情報提供・意見収集	実施期間	2005.7.25～10.27	2006.7.10～11.4	2007.9.18～2008.1.10	2008.9.29～12.25
	PIレポート配布	50,000部	60,000部	75,000部	100,000部
	インフォメーションコーナー	空港、県庁、市役所	空港、県庁、市役所、地整	空港、県庁、市役所、地整	空港、県庁、市役所、地整
	ホームページ	2005.6.24～10.27	2006.6.27～11.4	2007.9.10～2008.1.10	2008.9.20～12.25
	説明会・懇談会	一般:5回 関係事業者・企業等:7回 周辺住民・自治体等:6回 出前説明会:4回	一般:5回 関係事業者:6回 周辺住民・自治体等:6回 出前説明会:11回	一般:6回 関係事業者:6回 周辺住民・自治体等:6回 出前説明会:25回	一般:5回 関係事業者:6回 周辺住民・自治体等:6回 出前説明会:65回
	オープンハウス	5か所/各2日	7か所/各2日	8か所/各2日	10か所/各2日
	空港見学会	5回	4回	1回	-
	シンポジウム	-	1回	-	-
	意見発表会	-	-	1回	-
	市民意見交換会	-	-	-	1回
パネル展示	-	9か所	-	7か所	
グループヒアリング	-	4回	-	-	
意見数	1,426名 3,115件	1,352名 3,921件	2,655名 7,933件	8,018名 28,557件	

## ■ 構想・施設計画段階の検討 (2009～2011年度)

- ✓ 総合的な調査の結果で得た「現空港における滑走路増設案」について、より具体的な空港計画策定に向けた検討を実施し、取りまとめ。

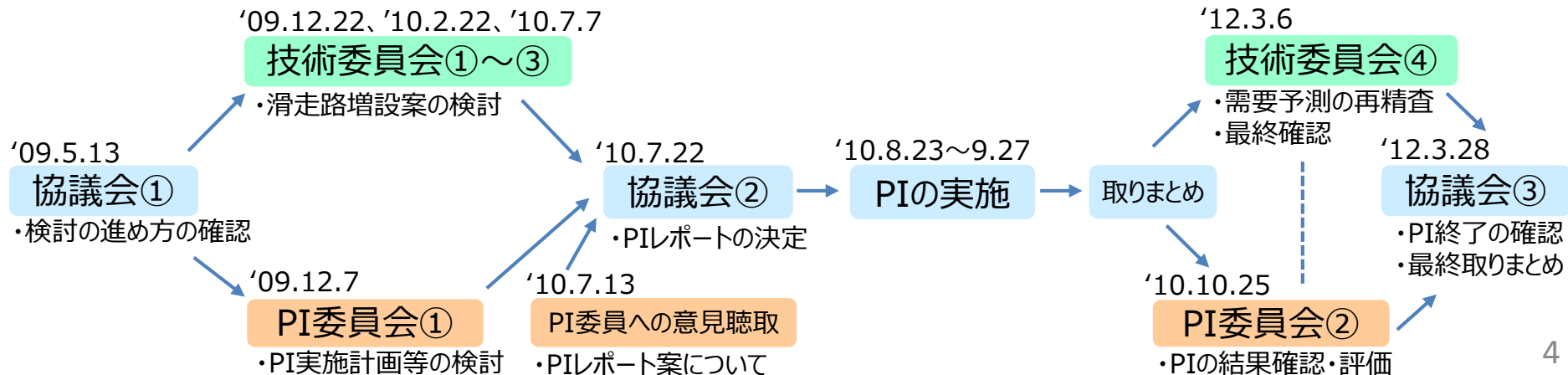
### 【検討体制】



### 【検討内容】

需要予測の精査、滑走路等の施設配置計画、空港周辺への影響、事業費・工期・費用便益分析等

### 【検討プロセス】

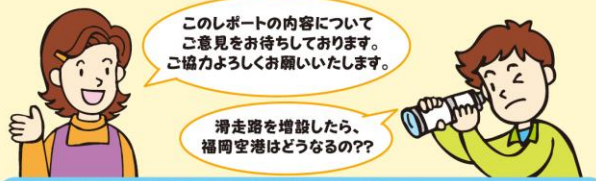


## 【PIレポート】

福岡空港滑走路増設の構想・施設計画段階のPIレポートの抜粋

# 福岡空港滑走路増設 PIレポート

構想・施設計画段階



目次

- 1. はじめに ..... 1
- 2. 構想・施設計画段階の検討内容 ..... 2
  - 航空需要予測の精査 ..... 3
  - 施設配置計画(滑走路等の施設配置、航空保安施設、ゾーニング、拡張用地) ..... 5
  - 空港周辺への影響(騒音影響範囲、制限表面) ..... 8
  - 工期・事業費・費用便益分析 ..... 10
- 3. 滑走路増設案の概要 ..... 12

PIとは パブリック・インボルブメントの略称で、みなさまに調査内容などの情報を積極的に提供し、より多くの人の意見を聞きながら、検討を進めて行く方法のことです。

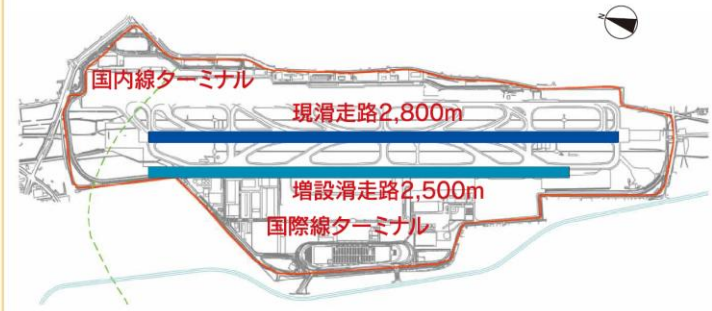
福岡空港構想・施設計画検討協議会  
国土交通省九州地方整備局／国土交通省大阪航空局／福岡県／福岡市

### 1. はじめに

福岡空港については、将来的に需給が逼迫する等の事態が予想されるとして、2002年の交通政策審議会航空分科会の答申において、「既存ストックの有効活用方策、近隣空港との連携方策とともに新空港、滑走路増設等の抜本的な空港能力向上方策等について、幅広い合意形成を図りつつ、総合的な調査を進める必要がある」と位置づけられました。

その後、2003年度から国(九州地方整備局、大阪航空局)と地域(福岡県、福岡市)が連携・協力し「福岡空港の総合的な調査」を行い、パブリック・インボルブメント(略名:PI)を通じてみなさまからのご意見をいただきながら調査を進めてきました。この中で、2010年代初期には滑走路処理容量に余力がなくなると予想され、抜本的な空港能力向上策である「現空港における滑走路増設」と「新空港」の2案についてご意見をいただいた結果、全体として見ると滑走路増設案に積極的なご意見の数が新空港案に積極的なものを上回りました。

総合的な調査の結果や、PIの実施結果、福岡県・福岡市の意見等を踏まえ、「現空港における滑走路増設」案で構想・施設計画段階に移行し、より具体的な空港計画策定に向けて検討を進めています。この「PIレポート」では「滑走路増設案」についての考え方をみなさまにお示しし、ご意見を頂きたいと考えております。



「現空港における滑走路増設」案



# 事例 2 : 那覇空港 (滑走路増設) ①

## ■総合的な調査の実施 (2003~2007年度)

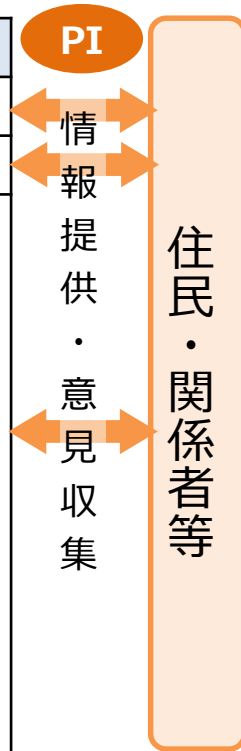
- ✓ 2002年12月の交通政策審議会航空分科会の答申において、那覇空港の需給が将来的に逼迫する等の事態が予想されるとして、抜本的な空港能力向上方策等について、幅広い合意形成を図りつつ、総合的な調査を進める必要があると示された。
- ✓ これを受け、国と地域 (沖縄総合事務局、大阪航空局、沖縄県) において、2003年9月に「那覇空港調査連絡調整会議」を設置し、那覇空港の今後の整備のあり方について総合的な調査を実施。
- ✓ 調査を進めるにあたっては、検討を3つの段階に分け、各段階でPIを実施。その結果等を踏まえ、滑走路増設案により、構想段階の検討に移行した。

＜総合的な調査：那覇空港調査連絡調整会議＞ ※期間中に本体会議8回、幹事会7回開催

段階	検討内容
ステップ1	那覇空港の現状、課題、将来像
ステップ2	那覇空港の将来需要予測及び空港能力の見極め
ステップ3	那覇空港の将来対応方策 ※ 滑走路増設について滑走路間隔、配置方向の組み合わせ12パターンから3案に絞り、平行誘導路の二重化、対応策を実施しないことも合わせて比較

将来対応方策案			
有効活用方策案	抜本的な空港能力向上方策案		
平行誘導路の二重化	1310m案	930m案	210m案
<p>現平行誘導路 現滑走路3000m ターミナルビル</p>	<p>増設滑走路3000m 展開用地 現平行誘導路 現滑走路3000m ターミナルビル</p>	<p>増設滑走路3000m 展開用地 現平行誘導路 現滑走路3000m ターミナルビル</p>	<p>増設滑走路3000m 展開用地 現平行誘導路 現滑走路3000m ターミナルビル</p>



滑走路増設案 (3案からの絞り込みなし) により、構想段階へ移行

# 事例2：那覇空港（滑走路増設）②

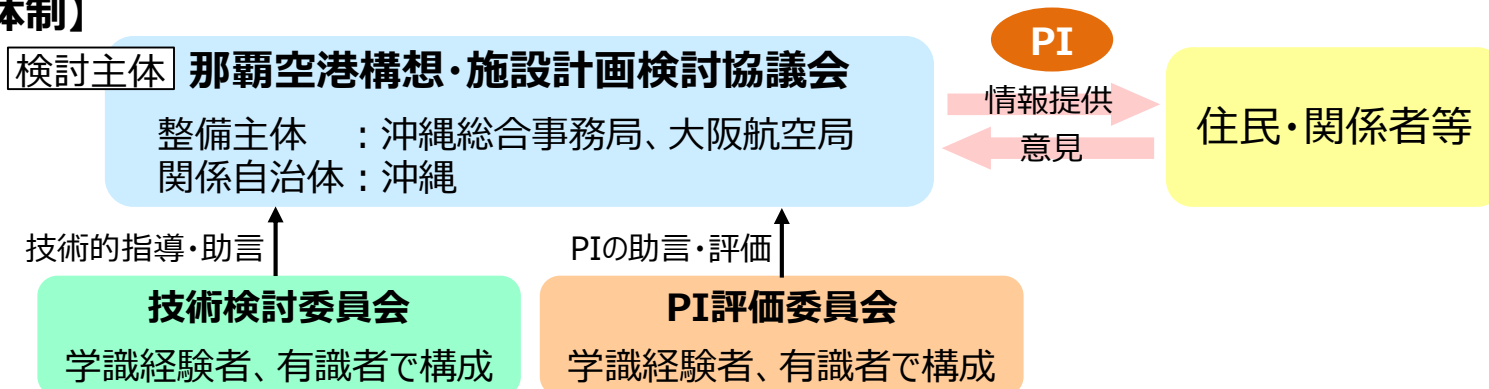
＜総合的調査におけるP Iの実施内容＞ ※ P I 評価委員会の助言、評価を得て実施

		ステップ1	ステップ2	ステップ3
周知広報	開始時期	2005.7.21～	2006.7.31～	2007.8.29～
	新聞広告	7回/3紙	4回/2紙	7回/3紙
	ラジオ放送	1回/1局	行政番組:7回	行政番組:54回
	テレビ広告	—	40回/3局	
	テレビ放送	県政番組:3回/3局	県政番組:3回/3局	県政番組:3回/3局
	ポスター	空港・公共施設等:1,049枚 PI会場等:250枚	空港・公共施設等:1,000枚	空港・公共施設等:1,246枚 PI会場等:254枚
	行政広報誌	沖縄県、那覇市、豊見城市、 沖縄総合事務局	沖縄県、県内13市町村、 沖縄総合事務局	沖縄県、県内20市町村、 沖縄総合事務局
	ホームページ	2005.7.21～	2006.7.31～	2007.8.29～
その他	県庁内テレビ放映	空港大型ビジョンで放映 県議会棟前電光掲示板への掲示 PI開始式の実施:1回	PI開始式の実施:1回 各種大会、会議での呼びかけ:9回	
情報提供・意見収集	実施期間	2005.8.1～9.30	2006.8.31～10.31	2007.8.29～10.28
	調査報告書配布	詳細版:5,550部 概要版:26,462部	詳細版:5,710部 概要版:21,473部	詳細版:16,139部 概要版:77,235部
	ホームページ	2005.7.21～9.30	2006.8.31～10.31	2007.8.29～10.28
	説明会・懇談会	一般:3回 周辺住民:2回 関連事業者:1回 大学:1回	一般:3回 大学:2回 空港関係者:1回 経済団体:1回 観光団体:1回	一般:6回 大学・県職員:3回 地域住民:3回 空港関係者:2回 経済団体・観光団体:23回
	オープンハウス	6か所・延べ35日	6か所・延べ46日	26か所・延べ172日
	空港見学会	1回	1回	1回
	シンポジウム	—	1回	1回
	パネル展示	4か所・延べ72日	3か所・延べ103日	10か所・延べ165日
	その他	県庁内でDVD放映	県庁内でDVD放映	—
	意見数	499名 697件	982名 2,404件	8,892名 20,951件

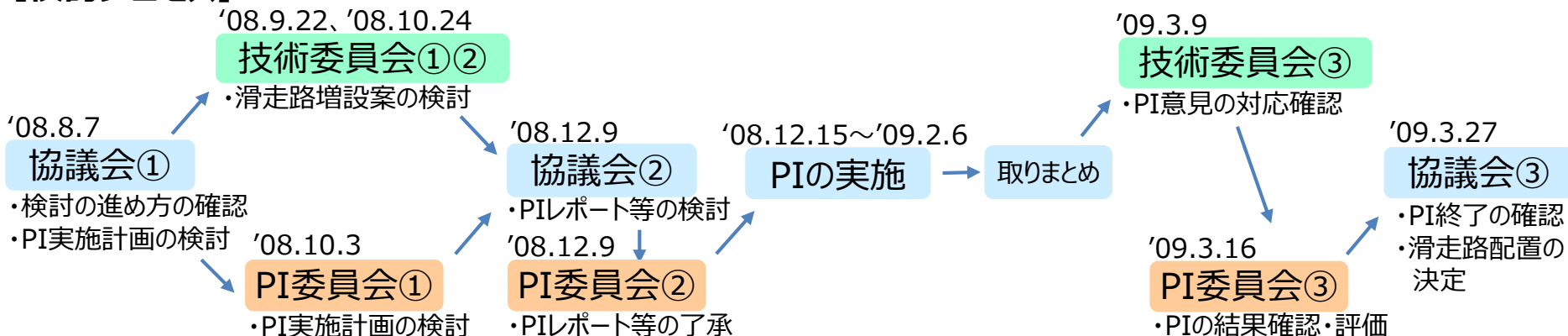
## ■ 構想段階の検討 (2008年度)

- ✓ 総合的な調査の結果を踏まえ、滑走路増設 3 案を基本に施設規模、空港能力、配置、環境影響等について詳細な検討を行い、滑走路増設案 (滑走路間隔 A案:1,310m、B案:850m) を作成。
- ✓ P I の実施を経て、A 案を選定し、施設計画段階に移行。

### 【検討体制】



### 【検討プロセス】



## ■ 施設計画段階の検討 (2009年度)

- ✓ 那覇空港構想・施設計画検討協議会において、構想段階で選定した滑走路増設案を対象に、具体的な施設配置について詳細な検討を実施し、県民への意見募集を経て取りまとめ。

## 【PIレポート】

### 那覇空港滑走路増設の構想段階のPIレポートの抜粋

ご自由にお持ち帰りください

あなたの声をください♪

**リッパPIです!**  
(※PIは、PIではありません)  
空港から見える飛行機の空

**那覇空港  
構想段階PIレポート**  
滑走路増設案の決定に向けて・・・



沖縄の空の玄関口「那覇空港」

ここからの那覇空港について、みんなで考えていきましょう。

**那覇空港構想・施設計画検討協議会**  
平成20年12月

パブリック・インボルブメント(PI)とは？ 公共事業の計画策定等において、国民や地域住民の方が計画に係わる情報を得て意見を表明できるような場を設け、関係などを通じて寄せられた意見を計画に反映する取り組みのことです。【公表(Public)を含有する(Involve)ment】

### はじめに

- ※ 那覇空港は、沖縄の玄関口として国内外各地を結ぶ拠点空港であるとともに、沖縄県のリーディング産業である観光・リゾート産業のみならず、生活物資の輸送や農水産物の出荷等を通じて県民生活や経済活動を支える重要な社会基盤でもあります。
- ※ 国(内閣府沖縄総合事務局及び国土交通省大阪航空局)と沖縄県では、平成15～19年度にかけて、那覇空港調査連絡調整会議を設置し、那覇空港の将来整備のあり方について、計画への住民参画を目的としてパブリック・インボルブメント(PI)の手法を取り入れながら、「那覇空港の総合的な調査」を実施しました。
- ※ 調査の結果、現在の施設のままでは、2010～2015年度頃には夏季を中心に航空旅客需要の増加に対応できないおそれがあることが明らかとなりました。また、PIでは、滑走路増設等将来対応方針に肯定的な意見が多数寄せられました。
- ※ これら調査結果を踏まえ、平成20年1月31日、那覇空港調査連絡調整会議において、那覇空港については、今後具体的な将来対応方針について検討を進めることが適当との結論が得られ、今年度より「構想段階」へ移行しました。
- ※ 構想段階では、滑走路増設について「那覇空港の総合的な調査」で提示した複数案を基本に具体的な検討を行います。

※ 国と県では、那覇空港の構想段階の検討にあたり、「那覇空港構想・施設計画検討協議会」を設置し、PIの手法を取り入れ、透明性を確保しつつ幅広い合意形成を図りながら検討を進めています。

※ また、詳細検討にあたっては、高度な技術・専門的判断や計画内容の合理性を確保することを目的に、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」を設置し、様々な観点から検討を行うとともに、PIの実施にあたっては、「那覇空港構想段階PI評価委員会」の助言等をいただきながら進めています。

※ このレポートは、滑走路増設案について、施設の規模や配置、環境影響等について詳細な検討を行った結果をとりまとめたものです。

※ このレポートの内容について皆様からいただくご意見は、滑走路の配置等を決定する際の重要な要素となります。このレポートの内容に対する皆様のご意見をお待ちしています。

平成20年12月  
那覇空港構想・施設計画検討協議会



### 目次

①	これまでの検討	1
②	構想段階の検討方法	4
③	施設規模・空港能力の検討	5
④	滑走路増設案の検討	7
⑤	滑走路増設案の比較	9
⑥	滑走路増設案の選定に向けて	15

別添 アンケートはがき

## ■ 構想段階におけるPIの実施

### <PI実施内容>

周知広報	新聞広告	6回/2紙
	ラジオ放送	行政広報番組：62回
	テレビ放送	行政広報番組：3回/3局
	ポスター	1,500枚 ※公共施設、空港、駅等
	行政広報誌	沖縄県、県内16市町村、沖縄総合事務局
	ホームページ	2008.12.15～ ※専用ページに情報掲載
情報提供・意見収集	その他	PI開始式の実施:1回 各種大会、会議等での呼びかけ:23回
	PIレポート	概要版:86,549部 ※公共施設、空港、駅、PI会場、 詳細版:1,094部 各種会議・大会等で配布
	ホームページ	2008.12.15～2009.2.6 ※専用ページにPIレポート、意見募集アンケート掲載
	説明会	一般:7回(389人) ※県庁、6市
	懇談会	地域住民:10回(350人) 空港関係者:4回(122人) 経済団体等:13回(384人) 大学:1回(22人)
	オープンハウス	30か所・延べ190日 ※県市町村庁舎、空港、商業施設等
	シンポジウム	1回(197人)
	パネル展示	5か所・延べ103日 ※空港、駅等
	その他	県庁、沖縄総合事務局内でDVD放映
	意見数	13,531名 27,543件

### 【意見募集アンケート（ハガキ）】

1. 調査票にご記入くださる方、ご自身についてお答え下さい。
  2. 那覇空港の将来対応方針に関する調査についてお答えください。
    - ① 那覇空港の将来対応方針に関する調査を実施していることを、いつ知りましたか。
    - ② これまでのPIでアンケートに回答したことがありますか。
    - ③ 現在、PIを実施していることを何で知りましたか。
- ※ 設問の1.2.については、選択肢省略

3. 那覇空港の構想段階の検討についてお答えください。

A理解できた Bある程度理解できた Cあまり理解できなかった D理解できなかった

- ① 構想段階は、那覇空港の増設滑走路の概ねの位置・形状を決定する段階であること。 A B C D
  - ② 本アンケートは、PIの一環として実施しており、この意見が参考となり、増設滑走路の位置が決定されること。 A B C D
  - ③ 最新の手法及びデータを用いた需要予測により、施設の必要規模等を検討した内容。 A B C D
  - ④ 実際の運用及び那覇空港周辺空域の現状を踏まえ空港能力について検討した内容。 A B C D
  - ⑤ 総合的な調査で提示した3案を基本としつつ、自然環境、社会環境への影響低減、コスト縮減等の観点から、滑走路増設の最適な配置位置について検討した内容。 A B C D
  - ⑥ 那覇空港周辺市等から、瀬長島改変への反対、大嶺崎にある拝所等への配慮、騒音問題の改善要請について、要望等が出されていること。 A B C D
  - ⑦ 瀬長島の改変が生じる配置案については、地元の合意を得ることが困難として構想段階検討から除いたこと。 A B C D
  - ⑧ 那覇空港の特徴を踏まえ、多様な観点から評価項目を検討した内容。 A B C D
  - ⑨ 現滑走路と増設滑走路の間隔が異なる2案について比較評価した結果。 A B C D
4. 増設滑走路2案(A案・B案)についてどう思いますか。  
(自由記入方式)
  5. その他(滑走路増設やPIなど、何でも気づいたことを教えてください)  
(自由記入方式)

※PIの情報提供場所で配布

## ■ 施設計画段階における意見収集

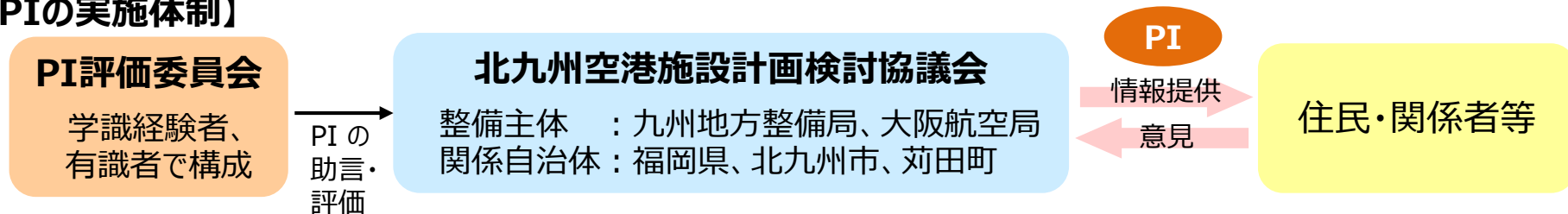
ホームページからの県民等への意見募集（2009.6.22～7.21）を実施 ⇒ 意見数：17名、37件

## ■ 施設計画段階の検討（2020年度～実施中）

- ✓ 大型貨物機の長距離運航を可能とするため、現滑走路の延長（2,500m⇒3,000m）について自治体等からの要請があり、国（大阪航空局、九州地方整備局）は滑走路を延長整備する計画を検討。
- ✓ この計画の透明性を確保、幅広い合意形成、検討の円滑かつ効率的な推進に資するため、関係自治体とで協議会を設置し、PIを実施することとした。

※ 滑走路延長事業については、基本的に候補地を選定する段階（構想段階）はないため、施設計画段階から実施

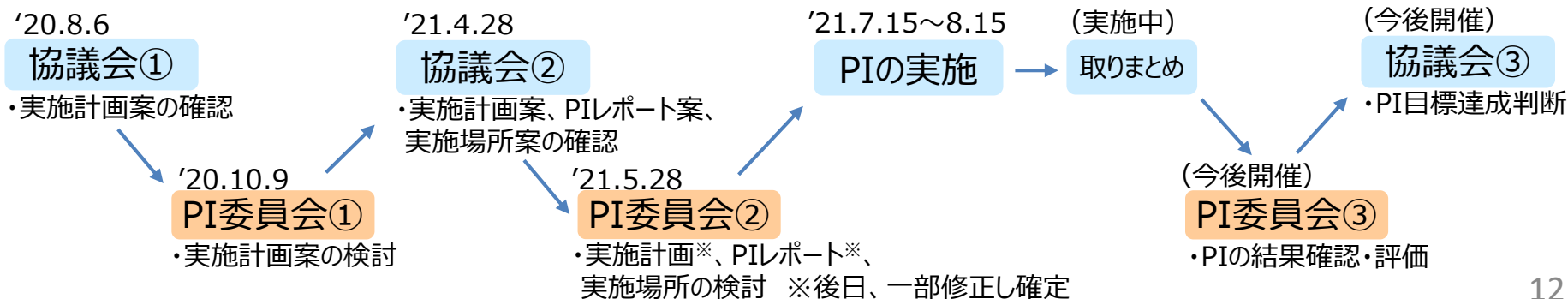
### 【PIの実施体制】



### 【検討内容】

PIの実実施計画（実施体制、取組方針、実施手順、実施手法、実施対象等）、提供情報（PIレポート）、PI活動の実施場所 など

### 【PI実施プロセス】



## 【PIレポート】

北九州空港滑走路延長の施設計画段階のPIレポートの抜粋

KITAKYUSHU AIRPORT

みなさまのご意見をお寄せください。

### 北九州空港滑走路延長計画について (PIレポート)



あいさつ

国(大阪航空局、九州地方整備局)は、北九州空港における大型貨物機の長距離運航を可能とするため、現行の滑走路長2,500mを3,000mに延長整備する計画を検討しています。

この計画の透明性を確保しつつ幅広い合意形成を図るため、関係者の連絡調整を図り、本検討の円滑かつ効率的な推進に資するため、関係地方公共団体(福岡県、北九州市、苅田町)と、国(大阪航空局、九州地方整備局)は、北九州空港施設計画検討協議会を設置しました。

令和3年5月、北九州空港施設計画検討協議会は、北九州空港の滑走路延長にともなう施設計画段階のパブリック・インボルブメント(略名:PI)の実施計画書を取りまとめました。この実施計画書に基づき、北九州空港の滑走路延長計画に関するPI活動を進めてまいります。

本書は、北九州空港の滑走路延長計画の内容を記したPIレポートです。北九州空港の滑走路延長計画の内容をご確認いただき、この計画に対するみなさまの意見をお寄せください。

令和3年7月15日

北九州空港施設計画検討協議会



北九州空港施設計画検討協議会

福岡県/北九州市/苅田町/国土交通省大阪航空局/国土交通省九州地方整備局

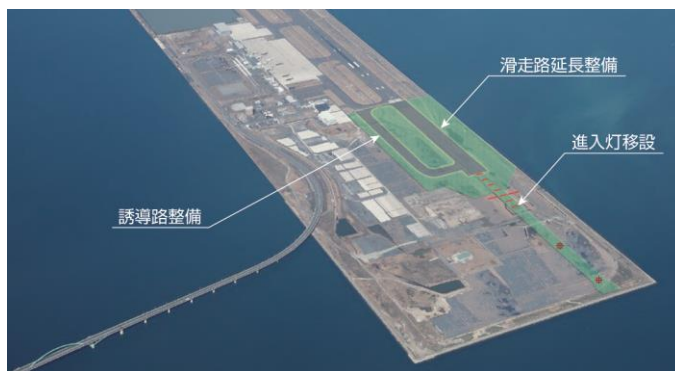


## ■ 施設計画段階における P I の実施

### <PI実施内容>

周知広報	マスメディア	新聞、テレビ等の報道機関に情報提供し、周知を促す
	ラジオ放送	福岡県広報番組
	テレビ放送	福岡県広報番組
	チラシ	枚数不明 ※福岡県・北九州市・苅田町の公共施設、空港等で配布
	ポスター	枚数不明 ※福岡県・北九州市・苅田町の公共施設、空港等で掲示
	行政広報誌	福岡県、北九州市、苅田町
	ホームページ	2021.7.15～ ※専用ページに情報掲載
情報提供・意見収集	SNS	福岡県、北九州市、苅田町の公式アカウントから発信 (Facebook、Twitter、LINE)
	PIレポート	枚数不明 ※福岡県・北九州市・苅田町の公共施設、空港等で配布 福岡県と包括協定を結ぶ大手コンビニ (1社) に配架
	ホームページ	2021.7.15～2021.8.15 ※専用ページにPIレポート、意見募集アンケート掲載
	説明会	2回 (北九州市:1回、苅田町:1回)
	パネル展示	12か所 ※北九州空港、九州整備局、 福岡県、北九州市、苅田町の庁舎・公共施設
意見数	取りまとめ中	

### 【滑走路延長イメージ】



### 【意見募集アンケート (ハガキ)】

問1：本冊子 (北九州空港滑走路延長計画のPIレポート) を、どこで入手されましたか。該当するものに印を付けてください。

- 福岡県、北九州市、苅田町の公共施設 北九州空港  
コンビニ パネル展 説明会 ホームページ  
その他 ( )

以下の問2～6の設問は、PIレポートの内容について、どの程度ご理解を頂けたかをお伺いするものです。該当するものに印を付けてください。(一つのみ)

問2：北九州空港の概要 (北九州空港は、旅客の取扱いだけでなく貨物空港としても魅力のある空港であることなど) で紹介した内容についてご理解いただけましたか。(3～4頁)

- 理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

問3：滑走路延長の必要性 (北米・欧州との直行便には滑走路長が3,000m必要であること等) で紹介した内容についてご理解いただけましたか。(5～7頁)

- 理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

問4：滑走路延長の効果と影響 (北米・欧州との直行便の新規就航が見込まれることや周辺への影響など) で紹介した内容についてご理解いただけましたか。(8～12頁)

- 理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

問5：滑走路延長計画 (案) (滑走路長を南側に延伸することなど) で紹介した内容についてご理解いただけましたか。(13～15頁)

- 理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

問6：本冊子でご提供した北九州空港の滑走路延長計画についてご理解いただけましたか。

- 理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

問7：北九州空港の滑走路延長計画に期待することやご意見など自由にお書き下さい。

問8：貴方ご自身について教えてください。

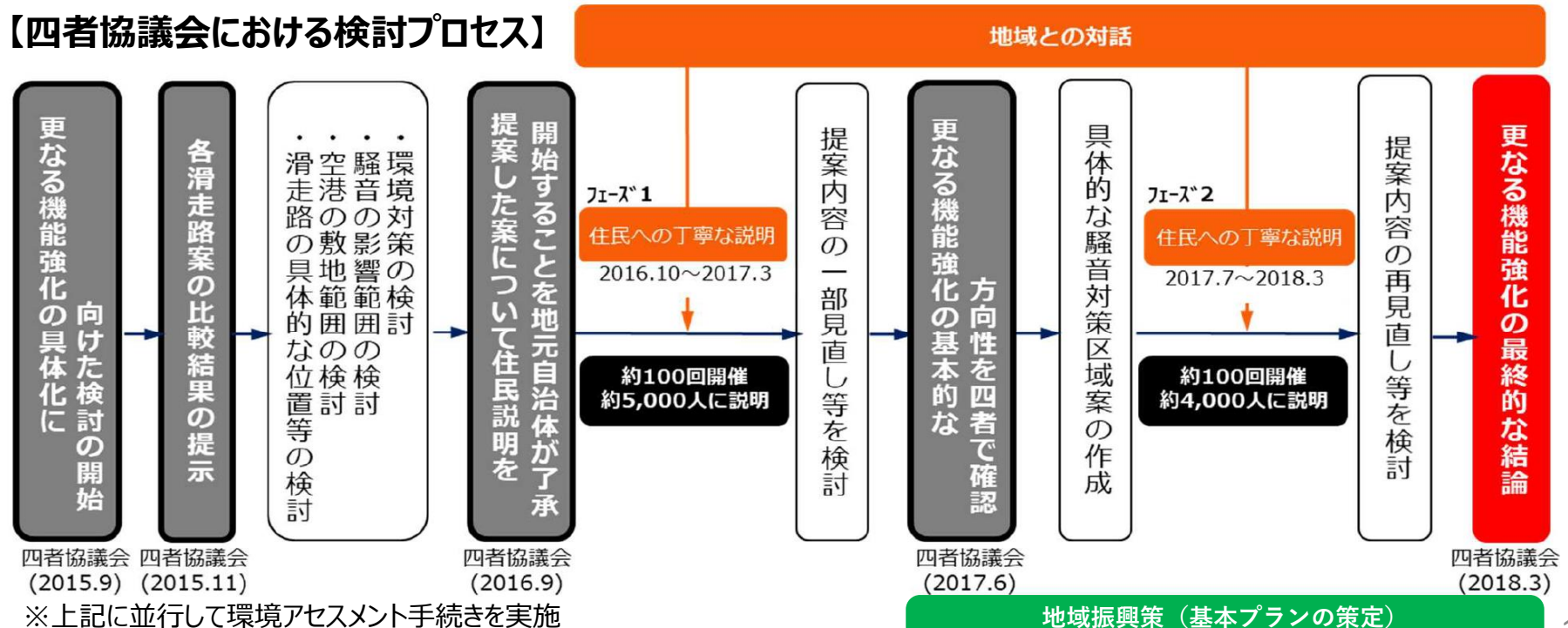
(省略) ※居住地、年代、業種 (選択) を記載

# 事例4：成田国際空港（滑走路増設、延長）①

## ■ 成田空港に関する四者協議会による検討（2015～2018年度）

- ✓ 2014年7月に、交通政策審議会航空分科会基本政策部会の「首都圏空港機能強化技術検討小委員会」において、首都圏空港の更なる機能強化のための方策の1つとして、成田国際空港の第3滑走路の整備、B滑走路の延伸が示された。
- ✓ これを受け、「**成田空港に関する四者協議会**（国、成田空港会社、千葉県、地元9市町で構成）」において、2015年9月から具体的な検討を開始。
- ✓ 成田空港は、開港に至る歴史的経緯等も踏まえ、また、この事業が地域の生活環境に与える影響が大きいことから、周辺地域に広く情報発信し、その都度、意見を伺うなど、周辺地域住民に丁寧な説明を行うとともに、地域振興策も策定するなど、関係者と共に住民の理解を深めてきた。
- ✓ 2018年3月、四者協議会において、滑走路延長等の事業実施について正式に合意を得た。

### 【四者協議会における検討プロセス】

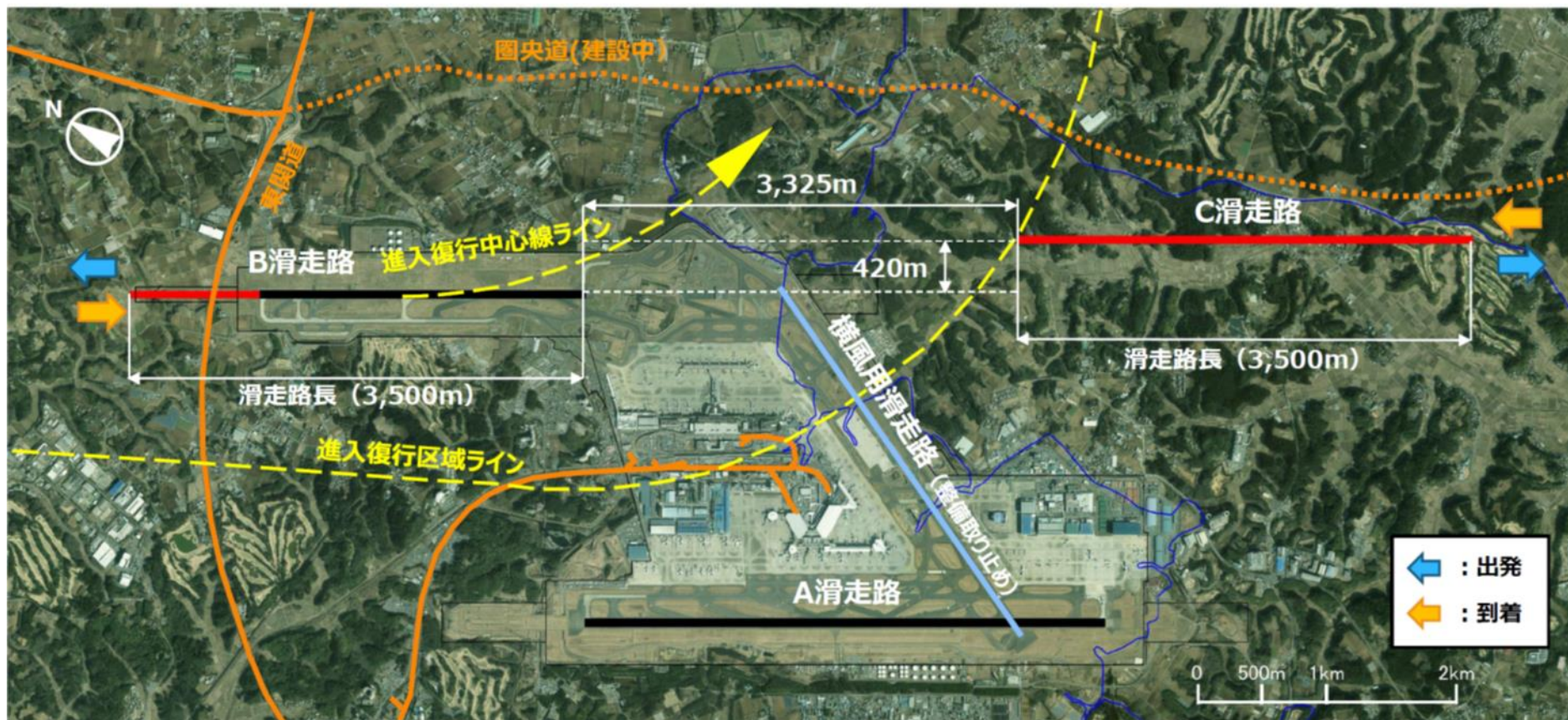


## 事例4：成田国際空港（滑走路増設、延長）②

### 【四者協議会で結論を得た滑走路の具体的な位置】

滑走路については、成田空港の国際競争力確保の観点から発着容量を50万回まで拡大させ、航空機の地上走行が短く効率的な運用が可能となる案とした。

- ✓ C滑走路は、B滑走路の南側に、3,500mの滑走路を以下の配置で整備する。
- ✓ B滑走路は、既存のB滑走路を北側に1,000m延伸し、3,500mの滑走路を整備する。



2018年3月 成田空港に関する四者協議会「成田空港の更なる機能強化の最終的な結論について(案)」より